

一

果てなき一本道が在りました。  
蟻が一匹歩いていますが、  
空腹と疲労に跛を引いて歩いてます、  
けれど、お眼々は理想に燃えて元気です。  
一本道の向うには綺麗な虹が光っています。

二

彼は強く信じています。  
虹の下には御殿が在って、  
五色の花が咲き香い、小鳥がピアノを弾きながら、  
泉の金魚とお話してる。  
壺の中には妹の、好きな蜂蜜ある事を。

三

一本道に夜が訊ねました。  
誰が撞くのか釣鐘草、  
故郷の歌によく似ています。  
草露飲んで泣きながら、  
仰げば月がゆがんで見える。

四

一本道の森の上。  
今朝も綺麗な虹が出た、  
彼は高く叫びつゝ、  
総てを忘れ進みます。  
一本道はまだ遠い。

五

あれから何回木の葉が散ったでしょう。  
蟻は路上で斃にました、  
その跡には勿忘の花が咲きました。  
お月様が見て笑っています。

六

一本道は延々と。  
十万億土に続くでしょう、  
一本道を行く者は、  
久遠の幸を得るでしょう、  
明日は誰が歩くでしょう。